

統計とっとり

平成15年 3月19日

第 89 号

鳥取県企画部統計課

鳥取県統計協会

0857-26-7103

第54回鳥取県統計大会



平成14年11月26日倉吉市の倉吉交流プラザ視聴覚ホールにおいて第54回鳥取県統計大会が、約100人の参加を得て盛大に開催されました。

記念講演

C.N.S (株) 話し方研究所の八木康子主任教授により「コミュニケーション・センスアップ」と題しての記念講演がありました。

講演の中で八木教授は、コミュニケーションセンスとは、お互いが気持ちよく関わり合うセンスであると説明され、第一印象、話しやすい雰囲気づくり、感じのよい話し方を具体例を交えながらお話しされました。

八木教授の楽しそうに語られるエピソードに時折会場からは笑いが起こり、最後に盛大な拍手が送られました。



「コミュニケーション・センスアップ」
八木 康子 主任教授

平成14年 秋の叙勲

統計調査とわたしの人生



元各種統計調査員
伊藤 弘之

平成15年2月立春も過ぎて、梅一輪一輪づつの暖かさと申しますが、寒気まだ衰えずの日が続いています。静かにふりかえてみますと、平成14年11月私にとっては、考えられないような出来事が起こりました。10月27日これは私の誕生日、その前後に役場から電話があり秋の叙勲の受章者と聞き、びっくりしました。

「叙勲とは遠きにありて思うもの。受章するのは夢の又夢」その夢が現実のものとなったのですから驚きでしばらくは、声もでないうくらいでした。11月3日に新聞に名前が掲載され、勲五等瑞宝章という、統計功労としては最高の栄誉を賜り、こんなにうれしいことはありません。でも今回の受章は、決して私だけのものではないと思っています。長年にわたり私を支えてくださった沢山の方々がいることを忘れてはなりません。

私と統計との出会いは昭和27年、19歳の春でした。忘れもしない漁業者の方を対象にした水産庁所管の「漁業センサス」という調査でした。今でもその当時のことを鮮明に覚えています。以来47年間各種統計調査に関わってきました。なぜここまで統計調査にかりたてられたのか私自身にもよくわかりません、でも確実に言える事は統計調査という仕事が私をはぐくみ育ててくれた事だと確信しております。最初に出会った頃は冷たくあしらわれた人たちが回を重ねるごとに心を開き、いつしか信頼されるようになったときこんなにうれしい事はありませんでした。統計調査という仕事は、決して派手なものではありませんが、この仕事が重要なのです。国、県、市町村を通じてすべての政策決定の基礎は、統計調査資料の上に成り立っているからです。

受章式のことにはふれさせていただきます。

総務大臣より受章式伝達の案内をいただき上京しました。11月11日虎ノ門パストラル会場に、受章者278名が集まり、総務省関係は58名でした。統計調査功労の方が約半数に近い26名ということで、国も統計を重要な仕事であるという位置づけをされているようです。

26名の都道府県別の受章者の内訳をみてびっくりしました。多いところで2名、普通は1名の受章であるにも関わらず、全国で一番小さな鳥取県が2名の受章であったことです。私は鳥取県を誇りに思うと同時に調査員のためにご努力なさっている国に心から感謝申し上げます。

平成15年1月4日人生70年の中で、最良の日を迎えました。私のファミリー14名で、温かい心のこもった叙勲祝賀会が開かれ、とても楽しい一日でした。宴の終わりに小学校2年生の孫の諭（さとし）くんから私にメッセージが送られました。

「おじいさんへ。おじいさん、くんしょういただいておめでとう。これからもげん気でいて下さい。長いきしてください。おばあさんとなかよくして下さい」読み終わったとき私は眼からとめどなく頬をつたう涙を止めることができませんでした。また一つかけがえのない叙勲という財産と家族のきずなを大切に守っていくことが、私を支えて下さった沢山の人のご恩に報いるものと思っています。



叙勲受章について



元国勢調査員
山 栞 正 明

私は、はからずも平成14年秋に叙勲受章に際しまして、勲六等瑞宝章の栄誉を受けましたことは、まことに名誉なことでございます。

内示を受けたときご辞退申し上げるのが本当ではないかと思いましたが、国の諸々の統計調査に携わっておられる方々の励みになるのだと、家族から勧められ、ありがたくお受けすることにしました。

11月3日文化の日、新聞に叙勲者氏名が発表されました。その後多くの方より、ご丁寧なご祝詞等をいただきましたので、一言衷心よりお礼申し上げます。

式典当日は、すがすがしい気持ちで臨みたいので、前日には上京して翌日の伝達式と拝謁には余裕のあるスケジュールを企て出発しました。当日は天候も快晴に恵まれ雄大な富士山も美しく車窓からの眺望もでき、家内は今日のような日は初めてと喜んでいました。宿泊するホテルには、午後3時過ぎには到着しましたが、すでに来て貸衣装などの予約をされていた人が下見や確認しておられる姿を見かけました。私は、幸いに式典に着用するモーニングコート等は、宅急便を利用したので、手軽に旅行ができ、楽でした。宿泊は、式典会場のあるホテルであったので、色々と便利で、朝はゆっくり出来ました。

当日は総務省関係の受付を済ませて、日程及び受章者名簿によると、総務庁行政功労、恩給行政協力功労、行政相談功労、国勢調査功労、統計調査功労、公正取引行政功労、以上の叙勲は58名でした。

伝達式会場は来賓者始め、受章者のほとんどが配偶者同伴で着席していました。式次第に従い勲

等順に、片山総務大臣より勲記と勲章の伝達が順調に進行され予定時間に終了しました。

そのあと、各休憩室で昼食と休憩を取っておりますと、皇居参入する出発時間になり、総務省の係りに案内され、バスの号車ごとに乗車して、皇居坂ノ下内より東庭に参入して時間調整で待っていらっしゃいましたら、宮内庁職員から、「ただ今から長和殿内の春秋の間に案内しますが、この長和殿の廊下では、お正月と天皇誕生日に一般参賀が行われます。」と話がありました。

時間になると春秋の間に侍従の方、次に天皇陛下がお入りになり、拝謁の栄を賜り感激の極みでございました。受章者代表が言上を申し上げて拝謁の儀が終わりました。

次に宮殿玄関前で、乗車バスごとに記念撮影をして順次皇居を出発して東京駅と伝達式会場で自由解散して帰路に向かいました。

私は昭和30年の国勢調査から平成12年まで、毎回調査員として従事しましたが、今回の受章は、その間多くの県、市の統計担当者の皆さんに、協力、指導、援助をいただいた賜ものと、心から感謝とお礼申し上げます。幸いに健康にも恵まれておりますので、この叙勲に甘えることなく微力ながらこれからも地域社会に一役を尽くしたいと存じます。

それが皆さまへのご恩返しになると思います。



平成14年度統計功労者表彰

平成14年11月26日、平成14年度統計功績者表彰の表彰が倉吉交流プラザで行われました。
本年度の統計功績者は次の皆さんです。

(敬称略、順不同)

○鳥取県知事表彰

鳥取県鉱工業生産動態調査
調査員 河本容子 (倉吉市)
事業所 大山乳業農業協同組合 (東伯町)

○総務大臣表彰

労働力調査
調査員 松井英代 (鳥取市)
家計調査
調査員 野村ルミ子 (鳥取市)
個人企業経済調査
調査員 手嶋朱美 (倉吉市)
平成13年度事業所・企業統計調査
指導員 田中みよの (鳥取市)
調査員 八田美恵子 (米子市)
平成13年社会生活基本調査
調査員 福田富子 (米子市)
各種統計調査
調査員 本池順美 (米子市)
〃 小椋幸雄 (三朝町)

○厚生労働大臣表彰

毎月勤労統計調査
調査員 田中洋子 (鳥取市)
事業所 廣栄工業株式会社 (岩美町)
〃 富士通ディスプレイテクノロジーズ(株) (米子市)
〃 医療法人 緑会 (鳥取市)
〃 特別医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院 (鳥取市)
〃 日本交通株式会社米子営業所 (米子市)
〃 医療法人清生会谷口病院 (倉吉市)

○鳥取県統計協会会長表彰

鉱工業生産動態調査調査員
事業所 丸京製菓株式会社 (米子市)
調査員 浜口英子 (鳥取市)
調査員表彰
調査員 稲脇照子 (鳥取市)
〃 森下春恵 (鳥取市)
〃 田中美子 (米子市)
〃 木村晋一 (境港市)
〃 佐々木真美子 (境港市)
〃 角田 完 (気高町)
〃 林原朋子 (名和町)
〃 二宮久子 (名和町)
〃 田内利長 (中山町)
〃 林原幸雄 (中山町)
市職員 岸本 弘 (鳥取市)

○経済産業大臣表彰

構造統計
調査員 山田昌子 (倉吉市)

○内閣府経済社会総合研究所長感謝状

消費動向調査
調査員 山本すみ枝 (気高町)

○経済産業省経済産業政策局

調査統計部長感謝状

経済産業省所管統計調査
調査員 古井靖子 (米子市)
〃 小原幸子 (鳥取市)



○全国統計協会連合会長表彰

調査員表彰

調査員 柴田和子 (鳥取市)
〃 花田葉子 (鳥取市)
〃 山口登喜子 (大栄町)
〃 向山正恵 (米子市)
〃 手嶋朱美 (倉吉市)
〃 堀尾展道 (鳥取市)
〃 木村建三 (米子市)
〃 米田泰子 (倉吉市)
〃 村田芳男 (境港市)
〃 松原 稔 (三朝町)
県職員 田中和栄 (河原町)

○勲五等瑞宝章受章披露

調査員 伊藤弘之 (気高町)

○勲六等瑞宝章受章披露

調査員 山根正明 (倉吉市)

親子で学ぶ統計教室

子どものころから統計的な見方、考え方を学んでもらおうと今年度は、倉吉会場でも開催された「親子で学ぶ統計教室」にたくさんの方が参加されました。

「見る人がはっきりわかるように、大事なところは色や形、文字を工夫することで見やすいグラフができる」と説明を受けながら、親子でグラフを作成しました。



鳥取会場

平成14年7月27日(土)

〈ところ〉鳥取県庁

〈講師〉元小学校教諭 堰八良子先生

〈参加者〉31組(69人)

米子会場

平成14年7月28日(日)

〈ところ〉米子市福祉保健健康センター
「ふれあいの里」

〈講師〉余子小学校 中谷博視先生

〈参加者〉25組(57人)



倉吉会場

平成14年8月4日(日)

〈ところ〉倉吉未来中心

〈講師〉鴨川中学校 南場兄一先生

〈参加者〉16組(35人)



感想 (アンケートより)

*はじめて参加しましたが、いろいろな視点から統計グラフが作成できるのだと思いました。

子どもも楽しみながらできていた様です。

*参加する前は、「3時間も～」としぶっていた息子ですが、作業にとりかかるとあっという間でした。
夏休み中なかにかひとつ統計グラフを仕上げたいです。

*親子で、協力しながら頑張りました。最後まで仕上げることができ、子どももうれしかったようです。

*色をいっぱいぬったりして楽しかった。

*子どもの自己表現力が確認できた。多い、少ないの比較ができたように思う。

調査員さんのひろば

統計雑感

気高町 吉村 善雄



昭和37年2月、私は、町に奉職して初めて統計調査に携わったのが、この年の暮れに実施された工業統計調査であった。以来、今日に至る42年間、統計事務担当や指導員、調査員として継続している。「アッ!」と言う間に時間が経ったという感じである。

昭和39年10月、東京オリンピックが開催された。折からの公共事業の大規模かと共に、所得倍增計画が打ち出され、企業活動も拡大していった。それ以前では、家庭、地域社会の人間関係の絆にも強いものがあった。

しかし、昭和30年代末を境に生活文化様態の変化が進み、そして21世紀初頭の現在では政治、経済、文化のグローバル化の中での豊かさの追求に本来の姿が失われ、疲弊した構造が溢れ出てきたといっても過言ではない。家庭・家族関係でも同じことが言える。

統計講座、講演会でよく聞く言葉に、「的確に統計数値を分析し、計画を策定していくのが目的である。これを怠ると無策になってしまう」と…。まさにそのとおりである。気高町では、昭和44年、翌45年の国勢調査に付帯して、職業人口などを把握して即座に利用する目的で、統計調査条例を制定した。併せて、統計調査の円滑な遂行と統計思想普及のための統計協会を設立した。活動は昭和50年代初頭まで行われていたようであるが、替わる統計担当者の心情と共に有名無実化し消滅してしまった。

どこの職場をみても事務様態はOA化され、IT化も進展した。一方、社会構造の変革、価値観の多様化、プライバシー問題などと共に人間関係が希薄化し、統計調査の協力が難しくなっているといわれる作今、調査を円滑に行うにはどうすればよいか再考してみる時ではと思うこの頃である。

調査員としての誇りとよろこび

米子市 山根 啓子



私が統計調査に携わって30年たちました今、懐古の限りない感慨にひたっています。思えば、国政の資料となされる重要なお仕事のご縁をいただいてより、生涯の仕事として続けようと思いましたが昨日のようです。

各種の調査に携わる都度初心にかえり、拒否なし、正確さを目標とし、姿勢を正して、一步一步忠実に取り組んでいます。調査の過程で当初、拒否の厳しい言動に接し、震える手足をかこちつつ、やっと主旨を説明し、納得していただいた時の喜びが、今も尚、鮮明に映ってまいります。又、共働きが増えた昨今、朝晩何度も足を運び、連絡メモを活用し、最後の手段として、電話代を貼ってお願いするなどの、苦勞と、努力と、忍耐のあけくの達成感はひとしおです。

「日進月歩」平成10年度第50回鳥取県統計大会のアトラクションとして「模擬統計調査実演」を鳥取県統計調査員会米子市の有志で実演し、総務省統計局の方より好評を得ましたことは、生涯忘れられない思い出となりました。又、東京で開催された中央研修やセミナー等の貴重な体験学習、総務省統計局の見学等は、今後の調査の糧になりました。

最近、調査環境の悪い中、マスコミで統計データが報じられたり、統計パネルで学ぶことにより、県民の方に統計調査への関心を深め、重要性を認識していただけるよう、啓発活動を推進しています。時折調査中の方から「〇〇調査の結果をテレビ、新聞で見ました。あの中に私の所も含まれているんですね」と、無理なお願いをやっと協力して下さった方の得意そうな面持ちに接し、明日への一条の光を覚えました。

今後の調査活動を通じての事業所や世帯の方との新たな出会いを大切に、社会のお役に立てますよう努力していきたいと思ひます。

徳島市と太田市の調査員交流会に参加して

鳥取市 森 本 晴 江

平成14年11月14日、第53回全国統計大会が徳島市で開催され、鳥取県統計調査員会を代表して参加させていただきました。大会の前日、徳島市統計調査推進協議会と、太田市統計協議会が交流されることをキャッチ。せっかくの機会、「阿波の国では踊らにゃ損々」と、徳島の調査員門脇市子さんにお願いし、徳島市20名、太田市21名の交流会に参加させていただくことができました。

群馬県太田市は、富士重工業（スバル）のあるところで、外国人労働者が多く、特にブラジル人が多いそうです。市の外国人比率は2.98%でも、泉町という所では10%で、労働力調査、就業構造基本調査など“言葉が通じず調査困難な話”が続出。若い調査員が定着しないので平均年齢も高く、また男性調査員（男性：女性＝2：1）が多いそうです。今後は、調査員の若返りが急務とのお話がありました。

太田市の方から「鳥取で調査員が継続している背景」の質問があり、①鳥取市はまだまだ調査環境が良いこと。②適切な研修の積み重ねが、仕事に対する自信となり、長続きの原因になっていること。③仕事での出会いや交流が、楽しみや喜びに繋がっていることなどを話しました。

次に、徳島市は女性社長の比率全国一、美容院数全国一など、女性の活躍がめざましい市だそうです。



です。登録調査員も働く意欲満々の女性が多いのですが、調査の仕事が少ないので、別の仕事についてしまわれる方が多いと伺いました。

全国大会で体験発表をされた門脇市子さんは、ユーモアと前向きな姿勢で79歳という実年齢とはほど遠い方でした。42年間の経験の中で、事務所に掲げられた「日の丸」に敬礼したら、客体がビックリ、調査に協力していただけたこと。客体の信ずるものに敬意を払う事が大切だと学びました。

群馬・徳島・鳥取と、地域こそ違え同じ仕事をする仲間。調査の苦勞話に花が咲き、客体の理解を得るための機知に富んだ対応や、外国の方を相手にする時の粘りと身振りけしんの必要性など、目から鱗が落ちる貴重なお話を伺うことができました。

この度の全国大会及び交流会参加にあたり、大勢の方にお世話になりました。特に徳島の調査員西川さんには、送迎・市内観光・写真の送付など旧來の友のようにお世話を頂き感謝しております。彼女とは、平成8年広島で受けた研修仲間であり、高知の仲間川崎さんも頑張っておられ、「いつの日か、縦軸連携交流会を鳥取で開催したいね」と、話し合えたことは嬉しく、是非実現させたいものです。

そして最後になりましたが、私を送り出してくださった調査員会の皆様と、ご指導くださいました県統計課の皆様に感謝し、実りの多かった交流会の報告といたします。

鳥取県統計調査員会・鳥取県統計普及推進員活動状況報告

国民文化祭で統計パネル展示!

統計で見る鳥取県

平成14年10月12日～11月4日まで開催された第17回国民文化祭の期間中、鳥取県統計調査員会、鳥取県統計普及推進員により、鳥取市の鳥取県民文化会館（10月15日～17日）、米子市の米子市文化ホール（10月25日～27日）で統計パネルが展示されました。



鳥取県民文化会館

展示期間中は、近年まれな早期寒波が襲来し、寒いの中での展示でした。

会場には、片山知事が来られ展示パネルをみられながら「日本の統計の正確さは、世界でも1、2位というくらい高い評価を受けていますよ。」という言葉に調査員としてのやりがいを感じ、感激されたそうです。また、親子で来られた方にグラフコンクールの作品パネルに関連して、教育状況のパネルの説明を行ったところ興味深く聞いてくださったそうです。今回の展示により県民の皆さまが、少しでも統計調査への認識を深めていただければということでした。



米子市文化ホール